炎天下にもめげず学習

夏季児童対策　親もぜひ参加を

先生が一生けんめいの学習会

三池労組婦人部が児童教育活動は、いままでの取り組みの反省のうえにたって、家庭における民主教育をつくりあげ、児童たちが生活を通じて、集団のなかにおける強固で健康な自律心をもつことを目標にしながら、労働組合の大衆闘争の一かんとして、具体的に中教審をハネ返していく闘いとして、中央委員会は二回にわたる討議を経て、カンパを含めた組織的な活動を行なうことにした。

労働組合ならびに主婦会が児童教育活動を一定期間定めて実施する例は、ほとんどないといわれるほど、容易でないものである。

従来まで三池での経験からいっても、意義はわかるとしながら、児童のいない家庭まで寄付を募ることは無理ではないか。塾にいっているので必要ない。参加費を軽減してもらいたいなど、組合・主婦会に依存する傾向が強く消極的な部分があったことは否められないことであった。

そこで今回は、三池労組の中央委員会の討議事項として問題をとらえ、大衆的な意志統一を基本にして、各地域分会が児童たちとの対話をつめながら、より具体的な計画をたてていったことは、何よりの前進といわねばならない。

夏季児童教育活動は、幸い今年も先生（大学生）として、教育にたずさわるという希望者は、遠くは東京武蔵野美術大学、鹿児島大学、九州大学より定員以上にのぼり、制限しなければならぬ実情になったが、七月二十四日より各ブロックに別かれて、九号、七号台風あけの三十度をこえる炎天下のもとで、学習、生活指導、レク活動など各地域の計画にもとづいて献身的な努力が期待される。

この活動は、八月九日まで実施されるが、先生（大学生）側のみにまかせるのではなく、組織をあげてその成果を創るために積極的な推進がはからねばならぬといえる。

ついに実った努力

三池じん肺会　両市から助成を獲得

三池じん肺会（会長＝向井芳夫さん。全国じん肺患者同盟）は、このほど大牟田・荒尾両市から同額の〝活動助成〟を受けたが、このことは何しろはじめてのことで各会員からよろこびの声があがっている。こんどの助成が、ときにはタスキがけでがんばった三池じん肺会の努力によることは、述べるまでもなく、同会も、ささやかながらもむくわれたこんど助成を契機どして、これからはいっそう活動を強めるんだとはりきっている。

同会が、三池労組を通じ、同助成を両市に要請したのは昨年十二月十四日のことだった。この三池じん肺会の活発なうごきに刺激され、不知火けい友会（三池新労・職組関係）もまた同様請願を提出するに至った。

その結果、出されてきた助成は大牟田が二十二日、荒尾が二十五日に、それぞれ五万円ずつ、それを両者で分け合うことになったものである。

これで、三池じん肺会の運動は一歩前進した。これからの活動が注目される。

なお、今年にはいってから、じん肺患者としてかねて入院加療中だった坂井進さん（荒尾市普源寺）、藤好五月男さん（大牟田市浜田町市営住宅）、それに稲田末雄さん（荒尾市原万田社宅。CO患者でもあった）の三人が、すでに故人となっている。

新労の中にも仲間が

青年労働者の役割重大化

青大部婦会

七月二十三日午前十時より三川指導部において、青年婦人部は本年度の定期総会を開催した。

青年部は、三池闘争のとき青年行動隊として中核的な担手となり警官弾圧、第二組合のヌト破りにたいして、戦闘的役割をはたし、三池労働者ならびに家族を励まし全労働者階級の運動に拡大していったことの評価は、内外に今日まで伝えられているところである。

その後、差別と分裂攻撃のなかにあって、ともすれば炭鉱合理化のきびしさのまえに組織減退もおこり、仲間のなかには希望を失いがちになる者を助け合いながら、三池闘争の歴史を継承発展することこそ、労働者解放にむすびつくことを確かめ合い、闘いをつづけてきた。

ところが、総括のなかにも青年婦人部が提起しているように、新規採用者はすべて入社と同時に新労組に強制加入させられているという現状のなかで、否応なく三池労組の高令化がすすんでいるし、青年部も三十才以下は十名を数えるに至っている。そのため、昨年度は規約改正によって三十三才まで希望参加をもとめながら運動をしなければならぬことになり、今後の組織をどう発展させるかが問題であった。

青年婦人部役員会議が数回開かれるなかで、情勢としては民労懇の右翼的戦線統一と真っ向から対立し、国鉄、全逓にみられるように、労資協調＝組織分裂という思想的弾圧をうけながらも、大幅賃上げと反戦闘争に青年労働者が中心となって七〇年代における労働運動を階級的に前進させていること。

また、三池炭鉱内部においても三千人二万トン体制合理化がすすむなかで、新労組青年との連帯が一層拡大していっていることであり、闘う統一をめざす条件は青年のなかに成熟しつつあるという成果にたって、困難な条件はあるとしても、存続させる必要があることが確認されたことである。

機関紙担当者会議〝開く〟

改めて知るCOの実態

事実の訴えに言葉なし

三池CO対策委員会所属の機関紙担当者会議が、去る二十一～三日の間三池現地で開催され、こんどは遠く東京の総評本部・教宣局の吉田賢治さんをはじめ熊本・福岡両県評などから担当者がかけつけたが、はじめて身をもって知った、CO患者とその家庭生活の中に見る、一一・九大爆発が残した傷跡の余りの深さにおどろき、改めて三池のCO闘争のもつ意義の大きさをしみじみかみしめていた。

集った担当者は、いま政府からわずか月に五百五十円の補助を押しつけられ、苦しい暮らしと闘いながら回復訓練中のCO患者や、それぞれ怒りと涙をこらえながら家庭を守っているCO家族たちと直接会って交流。話に聞く一つひとつの事実に目を見張っていた。

「私はその日一番方だったが、仕事がさばけず残業していたばっかりに、三川鉱の二十五昇で被災してしまった。

私は掘進夫だったが、やっと仕事を終えあがろうとしたとき、灰色の煙が流れてきた。たいしたことはなかろう、と思っているうちに、煙は真っ黒にかわり、もう洗い場も何もわからなくなってしまったから、足もとをキャップランプで照らしながらレールづたいに歩いていると、まわりのだれも彼もがバタリバタリ倒れていった。

そのうち、私の脚もガクガクしてきて、いつか倒れていた。救出されてから意識を回復したが、寝かされていたのが、三井本院の土間だった。

で、小便にいこうとしても腰が立たぬ。それに寝ている私のうえを、男だろうが女だろうがまたいで走り回る。思い余って退院したものの、再度悪くなって勝立分院に入院。

あれこれ病院をまわったあと、曙病院（大牟田地評の）に入院。ずっと治療を続けてきた。

今、労災補償を打切られ、回復訓練を押しつけられたが、ときに涙がポロポロ出るほどの頭痛は、今も襲ってくるし、立つひょうしに失神したり、朝吐き気におそわれたり、たまらぬ関節痛など、依然として消えてはいない。

それに、家内と関係できる機能はあの日以来完全に断たれた。もちろん、今もまったく同じ。

こんな私に、政府は目に五百五十円で生きてゆけといい、三井は三百円なら出そうという。これが被災者としてナットクできようか」

こんな、事実にもとずく訴えに機関紙担当者は、返す言葉もなかった。

なお、三池CO対策委員会は、総評、福岡・熊本両県総評、大牟田・荒尾両地評、それに炭労と三池労組をうって一丸として結成され、去る十一日を期してすべり出した。委員長は、総評のえび谷武弘常任幹事。三池のCO闘争をささえ、共闘をもって闘ってゆくこととなった。

CO家族と真剣な交流

家を焼失した甲斐さんに救援の手を

去る二十五日の夜なか、荒尾市栗山に居住する三池労組員の甲斐弘さんの家が、不測の事故のため焼失した。一物ももち出し得ず、まったくの着のみ着のまま甲斐さんは投げ出された形である。

周知のように、甲斐さんは昭和三十六年に職場闘争の責任を問われ、三井鉱山から不当解雇を受けた人。

ただちに福岡地方裁判所に対し〝身分保全の仮処分〟を申請、法廷闘争にはいった。

そのためには、まず生活の糧を得なければと、同所に家を建て、養鶏・養豚業を営み闘争を続けてきた。

当然ながらまず同申請に勝訴、元来払採炭工としてはきわめて不満ながら、緑ケ丘社宅事務所に職場復帰した。

ところが会社は、敗訴にこりず福岡高等裁判所に控訴して争いを続けたが、再度甲斐さんの勝訴となったものだった。

今甲斐さん一家は、まったくの裸一貫の身となったが、三池労組は今救援カンパに立ちあがっている。

思いも寄らぬ苦難ながら、見ごと克服して前進されることを心から祈っておく。

×

なお甲斐さんの住所は、荒尾市上井手字栗山だった。

火花

問題かかえ、職場で闘っています

青島正道

そちらは、集中豪雨の被害もなかった事、本当に嬉しい事です。

去る七月十六～七日、京成労組独自で、平和友好祭を箱根のキャンプ場において、約二百名という、初って以来の単組の仲間を結集して開催し、成功のうちにおえました。

また、二日中つよい雨ということで最悪の天候でしたが、団結の力でハネ返しました。

その中でも、うたごえサークルやブラスバンドの同志が、構成詩〝不知火の地底〟を、雨の中ずぶぬれになりながら貫徹しました。

闘いきる仲間は、初参加の人々も多い中から大きな歓声があがり、三池の正しさと、三池の火を守り続ける事を確認し、また討論集会の中でも、CO闘争の必要性を声を大にして訴えました。

そして低賃金の中から、数多くの仲間が、少い金額ではありますが、カンパを取り組みました。

今私の職場でも、保線に使う除草剤の中に多量のPCBが混入されている事を、仲間に語りかける中、その使用見合せを勝ち取ったのですが、ひょう山の一角だと思います。これを、ノーカーボン紙追放闘争にまでエスカレートする大きなもんだいをかかえております。共に闘いましょう。

（なお青島さんの住所は「東京都足立区千住三―二三」です）